

エコ・ファーストの約束

～ 環境先進企業としての地球環境保全の取組 ～



令和6年4月10日

環境大臣 伊藤 信太郎 殿

株式会社 JTB
代表取締役社長執行役員 山北 栄二郎

JTB グループは、「地球を舞台に、人々の交流を創造し、平和で心豊かな社会の実現に貢献する」という経営理念に基づき、交流の最大化と環境負荷の最小化を同時に目指し、サステナブルな社会を次世代に継承していきます。

1 気候変動への対応に向けた取り組みを積極的に推進します。

- 事業活動における環境負荷を段階的に削減し、2030年度までに、自社が排出する CO₂ 排出量の実質ゼロ達成(スコープ 1、スコープ 2)、2050年度までに事業活動全体でカーボンニュートラル達成(スコープ 1、スコープ 2 に加え、自社のサプライチェーンからの排出であるスコープ 3 を含む)を目指します。
- スコープ1・2の主な取り組み: オフィスの再生可能エネルギーへの切り替え、タスク・アンビエント照明導入、省エネ空調シート導入、温度設定、クールビズ・ウォームビズの推進、モバイル PC の待機時間設定等
- スコープ3における CO₂ 削減を実現するために、お客様に対する新たなサービスを拡大していきます。
 - ・ CO₂ ゼロ旅行[®]: グリーン電力をつくるための費用や省エネルギー設備の導入、適切な森林管理などの取り組みにつながる費用を旅行費用にプラスすることで、CO₂ 削減に貢献できるオプションを提供します。
 - ・ CO₂ ゼロ MICE[®]: MICE 実施の際にその会場で使用される電気をグリーン電力証書システムにより CO₂ が排出されない再生可能エネルギーに置き換えるサービスを事後検証も含めたパッケージとして提供します。
 - ・ ESG-BTM: 従来の出張管理に ESG の観点を組み合わせたサービスを提供します。2025年度までに顧客に対し可視化・レポートングした海外および国内の出張数 150,000 件を目指します。

2 環境教育の振興に向けた活動に取り組みます。

- 次世代を担う子どもやツーリズムを担う人々の教育を通して、環境教育、文化の継承に取り組みます。
 - ・ 中学・高校向け SDGs プログラムと CO₂ ゼロ旅行[®]を活用した修学旅行: 様々な SDGs の事前学習プログラムと CO₂ ゼロ旅行[®]を用いた修学旅行を組み合わせることで、より深い学びを提供し、持続可能な社会の創り手を育成します。
 - ・ 環境活動体験プログラム: 環境問題に取り組んでいる地域を訪れ、現地の人々や専門家と共に実践的に学び、環境への理解を深める機会を幅広い層に提供します。
 - ・ 社内教育・研修: 環境への意識を啓発し向上することを目的として、2028年度までにサステナビリティに関する基礎研修の受講率100% 階層別研修・新任役員向け研修へのサステナビリティセッションのカバー率 100%を目指します。
- 環境に関するボランティア活動等の社会貢献活動に取り組みます。
 - ・ 地球いきいきプロジェクト: お客様や地域の皆様と JTB グループの社員が一緒になり、観光地での清掃活動、自然環境の保全活動、歴史や文化の学習体験等、地域の特色を活かしたプログラムを展開します。

3 地域・事業者のサステナビリティ活動を支援します。

- 観光地のデジタル化を支援し、観光地の環境保護や事業者の課題解決に取り組みます。
 - ・ チケット HUB システム: 観光地入場や駐車場の事前予約制により渋滞を解消し、地域の方の生活と観光客の利便性を改善し、環境負荷を削減します。紙から WEB チケットへの転換で、紙の使用量や廃棄物を減少します。
- サステナビリティに取り組んでいる事業者・パートナーの販促活動をサポートします。
 - ・ 事業者、パートナーのサステナブルな取り組みについてアンケートを収集し、その取り組みを JTB ホームページに掲載します。
- 国際基準に対応したサステナブル・ツーリズムの理解と普及を図ります。
 - ・ グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会(GSTC)に参画する企業・団体と連携し、地域・事業者・旅行者に向けて、環境に配慮したツーリズムの理解と普及に取り組みます。

JTB グループは、上記取り組みの進捗状況を定期的に確認し、その結果について環境省に報告するとともに、JTB コーポレートサイトなどを通して公表してまいります。

